

第1回「産業廃棄物処理高度化推進懇話会」議事概要

1 日 時 平成30年8月24日（金） 14:00～16:00

2 場 所 ステーションホテル小倉 4階 貴船

3 出席者（敬称略）

<委員>

泉優佳理委員(科学技術コミュニケーション研究所 代表)

遠藤岳二委員(新日鐵住金株式会社 八幡製鐵所 安全環境防災部
環境防災室 室長)

籠田淳子委員(有限会社ゼムケンサービス 代表取締役)

松永裕己委員(北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 教授)

(50音順)

<事務局>

北九州市環境局産業廃棄物対策課

公益社団法人福岡県産業資源循環協会北九州支部

4 議 事

- (1) 本会合設置の経緯、目的について
- (2) 地方創生推進交付金事業の概要について
- (3) 産業廃棄物処理業の人材育成・確保支援事業について
 - ・産業廃棄物処理業者ニーズ調査（案）について
 - ・管理職向けダイバーシティ推進講習会（案）について
 - ・次年度事業について
- (4) 産業廃棄物排出事業者・処理業者の優良認定・評価制度設計について
- (5) その他

5 議事概要

◆はじめに

以前は不法投棄や不適正処理といった問題が散見されていた産業廃棄物業界だが、北九州市の事業者については、現在ほぼ問題なく処理を行っている。

産業廃棄物処理業はものづくりの町である北九州市を支える重要な産業である。それを踏まえて、産廃業界の底上げを今後どう行っていくのかについて、本会合において検討を行っていく。

また、これまでの監視と指導という行政から、育成も含めた方針に国も舵を切ろうとしている。行政の独りよがりではなく、事業者の意見も取り入れた意味のある政策となるよう、有識者である委員の皆さんから、忌憚のないご意見・アドバイスを頂戴したい。【事務局】

◆産業廃棄物処理業者ニーズ調査 調査票案について

○人材の確保、環境改善について

- ・ 企業の情報として、経営者の性別・年齢が必要。また、人材育成に関して、定期的な面談を実施しているかも確認したい。採用も大切だが、その後の育成や定着も難しい問題であると思う。
- ・ 採用ニーズについて、資格の保有者に関する項目が必要ではないかと思う。また、男性・女性のど

ちらを優位に採用しようとしているのかという部分も確認したい。

- ・ 職場環境改善に係わる部分では、休憩スペースがあるか、コミュニケーションを取れる場があるか、更衣室やシャワーといった設備が整っているかについて確認したい。そういった環境整備がこの業界のスタンダードだと言えるようになれば、とても好印象である。そのような内容がアンケートに織り込まれていると、企業側も意識をするようになる。
- ・ 定年や高齢者雇用、雇用延長について聞かなくて良いか。

○情報の取扱い、質問項目の根拠・順番について

- ・ 情報の取扱いについての記載がなく、公開か非公開なのか不明。企業体の実力などを推し量る情報が多く含まれており、そういった質問に対しては任意・回答出来ないといった選択肢が必要ではないか。
- ・ 項目の順番について、今回の趣旨である、雇用やダイバーシティのキーワードに係わるものを1枚目、最後の方に企業のグルーピングのための設問を置き、選択式で回答できるレベルのものにした方が良い。集計もし易くなり、答え易くもある。

○アンケート回収率の向上について

- ・ 公開データのみで売上げ規模ごとの集計整理など第一次分類は可能なはず。通常、非公開のデータについて、それらをどのように利用するのかわからない。
- ・ 聞きたいことは多々あるが、回答する側の立場で考えた時どの程度まで聞くのか、その情報をどう整理し利用するのかについて、バランスを考える必要がある。
- ・ 再度、何のためにこのデータが必要か、どのように利用するのか、その情報を基に何を知りたいのかについて整理を行い、必要ないものについては削除する。回答者の負担が大きくなり、回答を得られなくなることが一番の問題であり、それを回避できるよう項目の精査を行う。【事務局】

○質問項目の形態について(定量・定性的な切り分け)

- ・ 統計的処理を行い企業名の公表は行わないと書かれているが、このアンケートで統計的な処理は出来るのか。各々会社の規模が違うため、定量的に結果をまとめるより、定性的に生の声を聞き出すことが本アンケートにおいては重要なのではないか。

◆管理者向けダイバーシティ推進講習会(案)について

○講習会の目的・期待する効果について

- ・ 講習会としてどのような効果を狙うのか。様々な講習会があるが、どの程度実務的に役に立つものなのかという点が重要。

○講習会の方式・形態について

- ・ ダイバーシティについての話か、もしくは雇用定着・働きやすい職場づくりについての話が良いのか、といったことについて議論が必要かと思う。また、講演方式が良いのか、交流方式も取り入れた方が良いか、といった会の組み立てについても検討が必要。
- ・ 最近の傾向では、学ぶ・理解する・行動するという、すぐにアクションに繋げられるものが好まれる。そのため、交流形式が多い。今回は管理職に向けたものであるが、その方々の本音トークと、それに対する講師のアドバイスという形式が良いと思う。
- ・ 講演を行うだけでは、その会社の事例と自社の現状に乖離がある場合、その目的に至るためのプロ

セスが見えないという状況が生まれる。そのプロセスや方向性が見える、またそれを見出すためのアドバイスが行えるような交流形式が望ましいのではないか。

○開催方式の違いによる満足度、場の活性化について

- ・ 一方通行よりも少しでも双方向となる形式の方が、受講者の満足度は高まる。さらに、受講者間での交流があれば尚良い。しかしそうなると、場の設定やコーディネーターの負担が高まるなど、懸念点も出てくる。
- ・ ワールドカフェ形式であれば200名でも可能である。ワールドカフェとはグループでテーブルを設置し、そこで意見を書き出し、時間制で席を移動しながら議論するものである。様々なアイデアが得られ、満足度も高い方法である。
- ・ 講習会方式でも良いと思うが、先ほどの意見のように紹介事例と自社の現状がかけ離れている、という事態は避けたい。事例紹介についても、課題を如何にして乗り越えたのか、という部分に重きを置いて説明していただきたい。また、受講者も巻き込むような形式が望ましい。
- ・ 学生の参加をお願いするのも良いかと思う。
- ・ 会場の選択等、本年度の予算の関係上、難しい部分はある。しかし、いただいたご意見は来年度以降の事業の参考にもしていきたい。【事務局】

◆次年度事業について

- ・ 産廃業者と排出事業者のマッチングが必要。お互いのことをよく知らないという現状がある。排出事業者の大手となると、総務等の部署が廃棄物についての対応を行っている場合がある。しかし総務の担当者は現場を知らず、形式的なやり取りのみを行っており、産廃業者側はその現状を理解していないという場合がある。ワークショップ形式でこういった現状について、排出事業者・処理業者を集めて議論をしたことがある。参加者の満足度は高かった。

○3Rアドバイザーについて

- ・ 3Rアドバイザー、コンシェルジュは誰のためのものか。排出事業者なのか、処理業者に対してのアドバイスを行うのか。
- ・ 一番困っているのは排出事業者。廃棄物に関する専門知識が乏しい部分がある。そういった事業者に向けて、処理の方法や業者の紹介などを行うことをイメージしている。【事務局】

○次世代経営者に向けたビジネス講座について

- ・ 産廃事業者の経営者向けにビジネス講座をやりたい。今の60代くらいの経営者の中には、勘と度胸でやってきたという人が多い。事業継承をする際に困ることになる。
- ・ ものの見方や分析のためのツール、マーケティング的な発想などがあるかないかで、意思決定のスピードが変わってくる。ニーズがあるのではと思う。

○インターンシップについて

- ・ 企業がインターンの受け入れを行う際、中小企業によるインターン生の扱いについて、企業によってお客様扱い・作業員扱いといったばらつきがある。現場を見るためにインターンシップに参加しているのに、意味がないという現状があり、そういった事態の回避のため、受け入れ態勢講座のようなものも開催していただきたい。
- ・ 大企業においてもそのような事例は多い。お客様のような扱い、企業説明会のようなものなど。大

学としても無理にお願いしているという意識や、企業も頼まれたから受け入れているが、本当に仕事させるのは二度手間、しかし無下にも扱えないという背景がある。

- ・ 求職者を増やすためにもインターンは大切。その仕組み作りが従業員の定着に向けたキャリアデザインの設計にも繋がる。とても重要な部分だと思う。

◆産業廃棄物排出事業者・処理事業者の優良認定・評価制度設計について

- ・ この認定制度を取得することによるインセンティブや効果をどう作るかが大切。
- ・ 予算面で経済的なインセンティブを作るのは難しいため、それ以外の工夫が必要。次回以降、アンケートの調査結果も踏まえ、具体的な内容についてご相談させていただく。【事務局】

○認定制度取得による信頼性について

- ・ 優良認定のさらに上のものが出来ると、信頼性が増して選びやすくなるのか。もしくは、そういうものではなく、技術的な部分や品目についてのみの議論になるのか。
- ・ 国と市のそれぞれに独自の優良認定制度がある。市のホームページ上でそれら認定業者を検索する機能はすで実装してある。現状では認定基準が曖昧なため、その見直しを行い、認定の価値・インセンティブの双方を高め、業者の信頼性を担保できる制度にしていきたい。【事務局】

○優良認定の取得による業界のイメージアップについて

- ・ 業界のイメージアップを考えると、7割以上の業者が優良認定を取得出来ればいいのではないかと思う。その上にスーパー優良認定(仮)を作ってはどうか。現状の認定業者数を見ると、たったそれだけの数なのかと感じた。客観的にみると、優良でない会社がそんなにたくさんあるのかと思ってしまう。
- ・ 北九州市の認定について、書類をもっと減らしスマートな企業マネジメントを行ってはどうか。ハードルを下げて、優良業者が増えるようなアクションプランを作りたい。それによって業界全体のイメージアップにも繋がると思う。
- ・ 業界全体のイメージアップの話と、さらにその中でもとても優れている、頑張ってくれている業者を評価するという仕組み作りが必要。
- ・ スーパー優良を取得するような先進的な事例が、他の優良な業者に対し、ステップアップの指標として見えるような仕組みになるといいのではないか。
- ・ そういった全体の高度化と、優良・もしくはスーパー優良(仮)を取得した際のインセンティブについて検討を行う必要がある。

○認定の取得によるメリットについて

- ・ ある会社の人と話をして、SDG s の取り組みを熱心にやっているがなぜなのか、と尋ねたところ、一番の理由は資金調達のためだということだった。SDG s に取り組んでいないと、資金調達が難しくなってきたため、という理由であった。そういった実利に結び付く要素が必要。